

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

第12期 代表 西村 豊

令和3年9月発行

創刊 平成5年7月16日



夏、クヌギの樹液を求めてたくさん昆虫が集まり、まさに虫たちの酒場になります。その中に特定外来生物のアカボシゴマダラがやってきました。わが国では多種の外来生物が問題になっていますが、今でも一部のマニアのために多くの外来生物が輸入され、飼育や繁殖が可能になっています。今後、在来種を守るために、外来生物の飼育や輸入には厳密な規制が必要なのかもしれません。写真のきれいな蝶には何の罪もないのですが。

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2021年9月20日現在）

第12期（登録期間：2021年4月1日～2024年3月31日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計288名です。自然環境部会129名 温暖化・エネルギー部会99名、ごみ部会82名、広報委員会27名が登録し活動されています。

群馬県の環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

群馬県環境情報サイト
ECOぐんま

<http://www.ecogunma.jp/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記URLへ

<http://www.ecogunma.jp/?p=3058>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/volunteer/>

目次

- P2 環境政策課
- P3 第12期代表 西村 豊
- P4 温暖化・エネルギー部会 奈賀 由香子
- P5 ごみ部会 山田 一郎
広報委員会 酒井 義明
- P6 太田市 西村 豊
温暖化・エネルギー部会 高橋 陽子
- P7 自然環境部会 田中 和夫
- P8 広報委員会 小峯 幸子、編集後記

第12期の新体制、役員、部会長、委員長、幹事、顧問

6月23日(水)群馬県環境アドバイザー連絡協議会開催の総会にて、下記表の通り決定致しました。

第12期 環境アドバイザー役員、部会長、委員長、幹事名簿

2021/9/9 現在

地域	通番	氏名	市町村	連絡先	備考	
役員		西村 豊	太田市		代表	
		角田 和男	沼田市		副代表	
		宗 義彦	前橋市		副代表	
		奈賀 由香子	高崎市		副代表	
部会 委員会		井上 金治	前橋市		委員長 広報委員長	
		奈賀 由香子	高崎市		部会長 温暖化・エネルギー部会長	
		田中 和夫	高崎市		部会長 自然環境部会長	
		山田 一郎	高崎市		部会長 ごみ部会長	
地区	地域	氏名	市町村	登録部会、委員会	備考	
中部	前橋市	1	城田 博巳	前橋市	温暖化	幹事
		2	中島 啓治	前橋市	自然、温暖化	幹事
		3	中島 資浩	前橋市	自然、ごみ、温暖化	幹事
		4	林 英男	前橋市	温暖化、広報	幹事
		5	周東 聖子	前橋市	自然、温暖化	幹事
		6	酒井 義明	前橋市	自然、広報	幹事
		7	梅山 さやか	前橋市	温暖化	幹事
		8	国安 俊夫	前橋市	自然、ごみ、温暖化	幹事
		9	北爪 郁子	前橋市	ごみ	幹事
佐波伊勢崎	10	膳 福一	伊勢崎市	自然	幹事	
	11	三木 恵子	玉村町	ごみ	幹事	
北部	渋川市	12	尾身 盛一	渋川市	自然、ごみ、温暖化	幹事
	北群馬、吾妻郡	13	富岡 淳	吉岡町		幹事
西部	安中市	14	吉澤 敏則	安中市	自然、ごみ、温暖化、広報	幹事
		15	湯澤 正明	安中市	自然、ごみ、温暖化、広報	幹事
	高崎	16	高橋 文子	高崎市	ごみ	幹事
		17	田中 孝治	高崎市	ごみ	幹事
		18	岡本 正治	高崎市		幹事
		19	藤森 昇	高崎市	自然、ごみ	幹事
		20	竹内 昭久	高崎市	ごみ	幹事
		21	清水 明	高崎市	温暖化	幹事
		22	渡辺 克枝	高崎市	自然	幹事
		23	葛西 詔子	高崎市	自然	幹事
		24	田村 謙二	高崎市	自然、ごみ、温暖化	幹事
		25	中山 直樹	高崎市	自然、ごみ	幹事
	26	加藤 幸輝	高崎市	ごみ	幹事	
	27	小峯 幸子	高崎市	広報	幹事	
富岡 甘楽	28	今井 健三	富岡市		幹事	
	29	高橋 美枝子	富岡市	ごみ、温暖化	幹事	
藤岡	30	柴田 義明	藤岡市		幹事	
東部	太田市	31	荻野 小夜子	太田市	ごみ、温暖化	幹事
		32	岡本 香代子	太田市	自然	幹事
	みどり市	33	鹿沼 薫	みどり市	自然	幹事
		34	鈴木 久	みどり市	自然	幹事
	桐生市	35	星野 定利	桐生市	自然	幹事
		36	関口 豊子	桐生市	ごみ	幹事
	館林市	37	橋田 浩一	館林市	自然、ごみ	幹事
	邑楽郡	38	築比地 庸雄	邑楽町	ごみ、温暖化	幹事
顧問	前代表	39	原田 邦昭	高崎市	自然、ごみ、温暖化、広報	顧問 11期代表
	元代表	40	須永 徹	太田市	自然、ごみ、温暖化、広報	顧問 9.10期代表
	元代表	41	鈴木 克彬	前橋市	自然、ごみ、温暖化、広報	顧問 5.6.7.8期代表

群馬県環境アドバイザー連絡協議会代表就任挨拶

第12期代表 西村豊

この度、群馬県環境アドバイザー連絡協議会 12 期の代表という大役を担わせて頂くことになりました西村豊です。宜しくお願ひ致します。

群馬県の環境行政の状況も最近大きく変わってきました。

2019年12月山本知事が2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ」を宣言し、2021年4月には2030年度の温室効果ガス排出量を、2013年度比で50%削減する目標を決定し、実現プランが改訂され、プランの中では、国や市町村、事業者や県民の皆様と連携を密にし、「ぐんま5つのゼロ宣言」の実現に向け全力で取り組みます。と宣言されています。

今年4月にはSDGsの考えを活用し「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」を将来像に群馬県環境基本計画2021-2030が策定されました。

アドバイザーの活動は群馬県環境アドバイザー事業実施要領の中で「地域における県民一人ひとりの環境保全への取り組みや組織活動の充実を図るため、環境保全活動ボランティアの位置付けの基、市民運動の牽引役として活動する」と明記されています。

今年の総会後の研修会では環境政策課、気候変動対策課、自然環境課より新環境基本計画に基づいた詳しく具体的な説明がありアドバイザーの活動が期待されていることが伺えます。

このような背景から環境アドバイザー連絡協議会では今までの活動を継続しつつ、群馬県の環境基本計画等に沿った活動を県や地元自治体と連携して行うことが重要になってくると考えています。

活動の活性化について幹事会では多くの前向きな意見を出して頂きました。皆様と意見交換を行いながらより活発な活動が出来るようにして行きたいと考えています。

ぐんま5つのゼロ宣言の実践もアドバイザーとしては取り組み易いテーマと思います。

新型コロナウイルスの影響は暫く続く可能性があり会議等は今までのような集合しての開催は難しくなりますのでWEB会議等のICT技術を活用して行きたいと思います。

皆様のご指導、ご鞭撻を頂き活動がより活発になるよう運営して参りたいと存じます。

ぐんま5つのゼロ宣言

- 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」
- 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」
- 宣言3 災害時の停電「ゼロ」
- 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」
- 宣言5 食品ロス「ゼロ」



「Refill ぐんま」の活動が始まりました

目的：プラスチックごみとなるペットボトル削減！

誰でも飲める無料の飲料水は地元群馬のおいしい水で！



給水スポットを探す仲間を募集しています

活動内容

1. まずは公共施設（市役所や公民館、公園、道路に設置してあるものなど）を中心に調べます。
2. 誰でも無料で飲める水道の給水スポット（有料とか会員制ではなく）があるか調べます。
※ペット容器に入ったウォーターサーバー等ではなく水道直結の給水器であること。
3. 給水スポットを見つけたら、Refill ぐんまに知らせる。
(Refill ぐんままで確認後マップへの登録申請をします→1～2週間でウェブマップ掲載されます)
4. 無償で水道水を提供する「給水スポット」になってくれるお店があればお願いします（余力があれば）。

詳しくは Refill Japan の HP を御覧ください → <https://www.refill-japan.org/gunmarefill@gmail.com>
問合せ & 参加登録はメールでお願いします → gunmarefill@gmail.com

Refill Japan 群馬県活動窓口 : 群馬県環境アドバイザー 温暖化・エネルギー部会
電話 : 070-5572-9624 (奈賀)

温暖化・エネルギー部会の令和3年度群馬県地域環境学習事業

もったいない！未利用の熱エネルギー



10月10日(日) 13時30分～16時

会場：共愛学園前橋国際大学短期大学部

(旧明和学園短期大学)

- 13:30～基調講演「熱とエネルギーのしくみ 利用される熱と捨てられる熱」
富岡 賢洋 氏 (群馬県立藤岡工業高校)
- 14:30～熱回収装置「Recalo + (リカロ)」導入事例紹介
畑元 浩 氏 (株)スイシン代表取締役
- 15:00～実験 「排湯からどれくらいの熱が回収できるか？」
流下液膜式熱回収装置(リカロ)とヒートポンプ実習装置で実験
- 15:20～ワークショップ「お湯を捨てたらもったいない！」
再エネとしてもっと利用できないか考えてみよう
オンライン参加できます。参加無料 申込は右QRコードから→



プラスチック問題

ごみ部会 山田一朗

30年後の私は何をしているだろうか？（多分この世にいない。）では30年後の子や孫たちは、何をしているでしょうか？その時、地球環境はどうなっているのでしょうか？私の想像では、地球の気候は激しく変動し、多くの人類にとって住みづらく暮らしづらい地球になっている可能性があります。正直なところ30年後のことは自分には関係ないと思っていましたが、子や孫など人類の未来を考えると、「そうもいかない」と考え直しました。

さて2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」は、いずれも取り組まなければならない重要課題です。少しも早すぎることはなく、遅すぎるかも知れません。その内の宣言4プラスチックごみ「ゼロ」は、環境中に排出されるプラスチックごみをなくすことです。国連環境計画の推計では、日本で1人が使い捨てるプラスチックの量は年間約32kgで、米国に次いで世界で2番目の多さです。こうしている今も深海底にマイクロプラスチックが蓄積しつづくとすると心穏やかではられません。

2020年7月から始まったレジ袋の有料化ですが、レジ袋辞退率はスーパーの場合57%から80%に上昇したとのことです。全国で年間7万トンのレジ袋が減少したことは評価できるとしても、80%と言う数字はとても満足できるものではありません。また本年6月に成立した「プラスチック資源循環促進法」は努力義務ではありますが、企業や消費者などにプラ製品はできるだけ長期間使用することや過剰使用を抑制すること、市区町村には食品容器・包装だけでなく、その他のプラ製品も一括回収することを求めています。飲食店やコンビニでのプラスチック製ストローやスプーンの扱い、市区町村のごみ収集体制などに変更が必要です。

国立環境研究所の田崎智宏氏によれば、プラスチックには4つの問題があるとされています。

1. 海洋プラスチック汚染・マイクロプラスチック問題
2. 石油資源依存問題
3. 地球温暖化問題
4. 大量生産・大量消費社会の4つで、1.2.3は技術革新やリサイクルなどの対策があるが4.の持続可能な社会の問題はリデュース以外の解決策はないとしています。使い捨てプラスチックを中心にできるだけ使わない買わないことが必要です。そして個人が消費を控えることには限界があり、製造や販売の段階でもプラスチックを減少させる仕組みがなければ問題は解決しません。

リサイクルしやすい製品やごみにならない商品などを選んで購入する「プレサイクル運動」や給水スポットを広げマイボトルを持ち歩く「リフィルジャパン」のような多様な運動がもっと必要ではないでしょうか？

.....

ミステリー体験会に参加して

広報委員会 酒井義明

7月11日（日）に群馬県環境アドバイザー連絡協議会温暖化・エネルギー部会主催の「ミステリー体験会」が高橋敬子講師（立教大学社会学部特定課題研究員）をお招きして開催されました。体験会は、気候変動を題材に午前・午後の2部構成で行われました。

「ミステリー」は、「謎」（ミステリー）を解きながら思考力を育むイギリス生まれの学習方法です。体験会では、グループに分かれて、断片的な認識から生まれる「疑問」を限られた時間で、協力しながら多くの情報をつなぎ合わせて解き明かすという、推理小説の探偵になったかのような「楽しさ」とグループワークでのコミュニケーションによる「新たな気づき」を得ることができました。

「ミステリー」を体験して、私たちの“いま”を見つめ直す機会となりました。私たちが普段目にするものは、ものごとの断片的な部分であり、そこだけに捕らわれてしまうと「木を見て森を見ず」のように全体像をとらえることができません。また、ひとりだけで考えていると、どうしても偏った考え方に陥りがちです。

私たちが強く関心をもつ環境分野で、課題解決に向けて創発するためには、皆さんとのコミュニケーションの中でユニークなもの見方や考え方からの気づきが大切だと痛感しました。群馬県環境アドバイザー連絡協議会では、皆さんとのコミュニケーションの場として、「自然環境部会」「ごみ部会」「温暖化・エネルギー部会」が活動中です。皆さんの参加が課題解決の“第一歩”なります。



水辺のごみ見つけ！2020 参加報告

太田市 西村 豊

「作る人・売る人・使う人 みんなで自然界に散乱するプラスチックを減らしましょう」を合い言葉に、海へと通じる水辺に散乱しているペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器の個数を数える調査「水辺のごみ見つけ！2020」が4月1日から11月30日まで実施されました。群馬県では前橋市の「南橘の自然観察と環境を守る会」(宗さん)、渋川市の「八木原ボランティア」(伊藤さん)、太田市の「新田環境みらいの会」(西村)の3団体が参加し調査しました。

前橋市の赤城白川(300m)でプラスチックごみ1袋、ペットボトル7個。渋川市の滝沢川(1km)でペットボトル15個、レジ袋1袋、飲料容器1個、缶5個。太田市の石田川(5km)でプラスチックごみ2袋、ペットボトル120個、レジ袋10枚、飲料容器30個が見つかり報告しました。

全国では398地点で2346人が参加し、ペットボトル8,382本、レジ袋7,045枚、カップ型飲料容器1,127個が見つかりました。今年も11月30日まで実施されています。個人や団体でも参加でき調査項目(ペットボトルだけでも可)のごみを数えて報告するだけです。

環境アドバイザーの皆様も参加してみませんか！



大雨の後河川に流れ出たプラスチックごみ

小型風力発電 実証実験

温暖化・エネルギー部会 高橋 陽子

6月26日、初夏のさわやかな日差しのもと、兼ねてから企画してきた小型風力発電機設置作業を前橋市嶺町にあるワイルドライフガーデンにて行いました。

設置場所選定に始まり、風車の土台となる可倒式荷台の設計・施工と会員のそれぞれ知恵を持ち寄り、工夫を重ね、漸く設置作業となりました。

発電された電力はバッテリーに蓄電し、井戸水を汲み上げるポンプの電源として利用し、さまざまな植物を育み、自然の営みと環境を学ぶ場として活用して行きたいとのことでした。

昼食には、園で排出された小枝を使ったカマドで炊いたウコギご飯とカラフルな地元野菜を頂き、P Vネットワーク佐藤さん制作のソーラー電源車両を見学、それぞれのエネルギー自給を生活に取り入れる工夫の学びの機会となりました。

今後も発電効率等測定し、改良を重ね、エネルギーの有効活用に繋がってゆくことと思います。



高山村共有林の整備

自然環境部会 田中和夫

最初に報告があります。

申請しておりました「緑の募金事業申請」が7月6日付で認可されましたので、種々の経費が捻出できるようになりました。詳細は追って説明相談いたします。

今回7月10日(土)に作業を行いました。梅雨の最中と言う事で連日の雨でしたがこの日は天気恵まれ順調に作業ができました。(午後は降りましたが作業は午前中のみ)部会員8名と殖産組合の新旧会長さんも参加され合計10人で、下草刈り、枯れ枝整理、葛の除去、木の根元の石の除去、などの作業を実施し、林間がスッキリしました。

◎今後は10月23日土曜日9時半、

11月13日土曜日9時半を予定しています。



高崎地区会「街中エコウォーク」に参加して

広報委員会 小峯幸子



環境アドバイザー・高崎地区会恒例イベントのひとつ「街中エコウォーク」は毎年、春と秋に企画開催されています。内容はご想像の通り、街中を歩きながらのごみ拾い。会員ご子息の高校生男子も加わり、コロナ禍自粛の合間に清々しい活動ができました。

例年、平日に実施されているエコウォークですが、警戒度4や知事メッセージにより今年は2回順延。再設定された予定日は曜日に関係なく、なぜか毎回11日。不思議に思っていましたら「毎月11日はイオン・デー」にポイントがありました。

活動途中、駅前のイオン系スーパーで昼食となったのですが、そのレシートが「幸せの黄色いレシート」となり投函BOXの「環境アドバイザー高崎地区会」のボックスへと入っていったのでした。



誰もがいちばん最初に経験するような街中のごみ拾いという環境保護活動にウイットをさりげなく効かせる。長く続く活動の秘訣なのかもしれません。

編集後記

2019年12月に「ぐんま5つのゼロ宣言」が発表され、2021年4月には更なる推進のため2030年度の温室効果ガス排出量を、基準年度の2013年度比で50%削減する目標を決定し、これに合わせて実現プランの改訂が行われました。そのように環境政策が進むなか、環境アドバイザーも第12期を迎えました。

この追い風に乗り、環境活動を盛り上げていきたいところですが、未だ終息の兆しが見えないコロナウイルス感染症の影響で多くの制限を強いられています。そのため、休日はもっぱら畑の草むしりです。

作業をしながら近くの畑や田んぼに目をやると、大型猛禽を模した凧(写真1)が大きな翼いっぱい風を受けて飛んでいます。生産者と動物たちの知恵比べを眺めながら、ふと過度に生産量や品質を高めるための大量の化学肥料や農薬の使用、生態系ピラミッドの模倣が周辺の生態系に与える影響が心配になりました。

暑いなかでの草むしり、借りた畑が草でいっぱいになることが恥ずかしく思えて頑張っていました。これも同じことかもしれません。

生き物達の場所を少しだけ借りて作物を育てさせて貰っていると考えると、使う以上に草をむしる必要ないし、作物が多少虫食いになることも少しばかりのおすそ分けです。

ほどほどに、ほどほどに... 手を洗って、ちょっと早めのビールを頂きましょう！



写真1 大型猛禽の凧

(広報委員会 酒井)

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース(GN)は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp